

Welcome to FETISH PARTY!

2018/02/17

DEEP ACID

目次

○前書き

○フェティッシュパーティーとは

- ・(音楽的)クラブカルチャとは似て非なるもの
- ・性的側面はあるが、LGBTとも異なる

○フェティッシュな人々

- ・社会的地位の高い人が多い
- ・ドレスコード

○フェティッシュの種類

- ・ボンテージファッション
- ・サイバー
- ・ユニセックス
- ・SM
- ・ゴシック
- ・人体改造(Body Modification)
- ・緊縛
- ・人形愛
- ・ボディサスペンション

○フェティッシュパーティーの楽しみ方

- ・No Spectators
- ・大人のファンタジー

○グッズ

- ・ラバースーツ、サイバーウェア
- ・緊縛道具
- ・手作り

○世界のフェティッシュパーティー

- ・Torture Garden
- ・Department-H
- ・THE GATE / Tokyo Fetish Ball

○フェティッシュパーティーを紹介するメディア

○結論:あらためて「変態」の定義

前書き

- クラブカルチャーの最先端として、最も刺激的な空間を提供してくれるフェティッシュパーティー。
- その一方、基本的に参加者が“表の顔”を隠して参加するパーティーであり、メディアや活字になることは皆無。
- 文化記録が残らないのはもったいなく、かじっただけの素人だが、寧ろ多少距離を置いた自分の方が語り易いだろう、と考え、発表資料作成にトライすることにした。

フェティッシュパーティーとは

「変態パーティ」と呼ぶのが正しい

- フェティッシュの原義は"性器以外の身体部位、及びモノ(衣装素材)への偏愛"である(後述)。
- 現在では本来のフェティッシュはパーティの一要素に過ぎない、現在のフェティッシュパーティは様々な"変態"をイベント化したものであり、実質的には"変態パーティ"である。
- 詳細については「フェティッシュの種類」の章で述べる。
- また、「変態」の定義についても、終章で問題提議する。

(音楽的)クラブカルチャーとは似て非なるもの

- 基本的にはクラブフロアで催されるパーティであり、(音楽的)クラブカルチャーとの関係は深い(殆どのパーティではフロアではDJがハードテクノをかけている)。
- しかし、フェティッシュカルチャーは(音楽的)クラブカルチャーの下位分類ではない。
- そもそもフェティッシュカルチャーは音楽カルチャーではない。上述の通り、変態文化全般である。

クラブカルチャーについての補足(1)

クラブ発祥の契機

- 宗教改革による「教会」コミュニティの解体
 - 産業革命による「階級」の明確化
- 上流階級が共通の趣味嗜好を共有する場として始まった。

クラブカルチャーについての補足(2)

クラブとダンスミュージックの関係

- コミュニティにおけるダンスミュージックの関係はクラブに限らず様々な文化で見られる(民族舞踊)。
- 19世紀までのダンスミュージックはクラシックであった(舞踏会)
- 20世紀以降の多様性のあるダンスミュージックの出発点はマイノリティ(有色人種)である。

ジャズクラブ(スイング、ビッグバンド、etc)、ラテンクラブ(マンボ、チャチャ、サルサ、ジルバ、etc)(ここまでは”社交ダンス”として現代クラブカルチャーの文脈から切り離された)、そしてR&Bのディスコテークなポップミュージック。公民権運動、ベトナム反戦運動のサブカルチャー誕生により、更に性的マイノリティがダンスミュージックを発展させる。(例:今日のクラブカルチャーの原点はNY BrooklynでLarry Levanが始めたParadise Garageと言われる)

19世紀の舞踏会の様子



ウィキペディア
「舞踏会」の項より

クラブカルチャーについての補足(3)

サブカルチャーの定義のずれ

- 欧米のサブカルチャーの定義：

階級闘争の中での中流、下層階級(=文化的マイノリティ)のアイデンティティとして発生した文化。ハイカルチャーの対義語。公民権運動、ベトナム反戦運動との関係など政治的側面が強い。→カウンターカルチャー
→この発表ではこちらの定義を採用。

- 日本のサブカルチャーの定義：

1980年代以降の「オタク文化」と混同して用いられている。BLのような男子同性愛を描いた作品はあるが、それらを生産、消費しているのは女子であり、性解放運動的なポリティカルなメッセージ性は薄い。

クラブカルチャーについての補足(4)

欧米サブカルチャーの二段階発展(1)

● サマー・オブ・ラブ

- ロックを中心としたムーブメント
- ヒッピー、ウッドストック、ビートニク
- この時点ではフェティッシュとの関係は薄いですが、その後David BowieやMarc Bolanらのグラムロック、サイケデリックロックの流れの中でユニセックスが文脈に登場する。→その後の「ビジュアル系ロック」の源流

クラブカルチャーについての補足(4) 欧米サブカルチャーの二段階発展(2)

- セカンド・サマー・オブ・ラブ
 - クラブミュージックを中心としたムーブメント
 - レイヴ、イビザ島、マッドチェスター
 - アメリカ発の「ハウスミュージック」と融合し、ゲイカルチャーと密接な関係を持つようになって世界的に流行。

クラブカルチャーについての補足(4)

フェティッシュ文化は19世紀からある

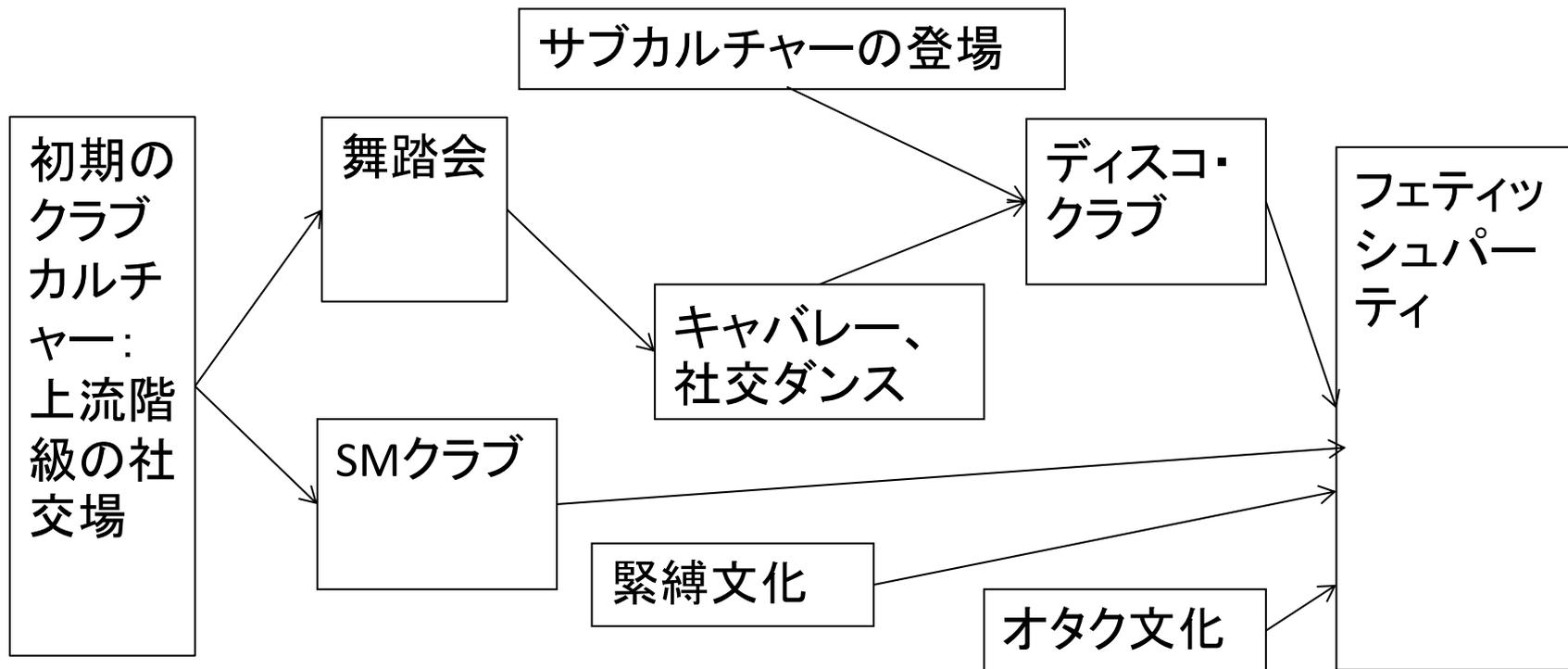
- 芸術家、エンターテイナーなどのセレブリティがパーティ文化を先導する(日本にも並行してお座敷文化が存在する)中で、フェティッシュが1ジャンルとして確立していく。
- 遊びの場、同好の交流の場として早くからSMファッションはあった(コルセットなど)→身体を締め付ける衣装文化はヨーロッパだけでなく(タイとミャンマーの国境周辺で暮らす)首長族のような発展途上文明にも存在する。
- 緊縛(後述)もまた、裏のお座敷文化と考えられる。

クラブカルチャーについての補足まとめ

19世紀以前

20世紀半ば

1980年代



日本のフェティッシュカルチャー:

- ヨーロッパ文化+日本文化のミクスチャー -

- フェティッシュカルチャーがクラブカルチャーの下位ではないことは、前述の通り“変態パーティ”である側面もある。
- それ以上に日本の変態文化を取り入れ、更にクラブカルチャーとは異なる独自性を持って発展している点が多い。“緊縛”がその最たるものである。(詳細は後述)
- 更にオタク文化とのクロスオーバーも日本独自のフェティッシュカルチャーの発展に大きく影響している。

性的側面はあるが、LGBTとも異なる

- LGBTは(後天性の場合もあり)基本的に他者への働きかけ、受入れに関する性癖である。(例: 同性愛、自身の生物性の否定)
- 一方、フェティッシュは自身の五感の多様性に関する性癖である。
- どちらも一般社会での生きづらさに大きく影響するが:
 - 前者の方が社会的地位に影響する度合いは大きく、エンターテインメントとして扱うことは憚られる。
 - 一方、後者は自慰によって欲求解消が可能であり、グッズの進化、エンターテインメントパフォーマンスの進化をもたらした。
- とはいえ、もちろん、フェティッシュパーティーにはLGBTの方々、或いはLGBTの人権養護運動に携わるアクティビストの方々も少なからず参加している(と思われる)。

フェティッシュな人々

社会的地位の高い人が多い

- そもそもクラブカルチャーは、もともとは階級社会の産物であり、エスタブリッシュメント(上流階級)の集う場であった(前述の補足参照)。
- それがビートニク等60年代のサブカルチャー登場によって、労働者階級独自のクラブカルチャーが生まれた。
- フェティッシュパーティーは、どちらかと言えばゴージャスな空間であり、寧ろエスタブリッシュメントのクラブ色を強く残している。
フォーマルな「舞踏会」を指すBALLと言う語(BALLETの語源である古フランス語)はクラブカルチャーではほとんど用いられないが、フェティッシュパーティーでは頻繁に用いられる。これもまた、クラブカルチャーとフェティッシュカルチャーの線引きの理由の1つ。
#これって、ネット炎上に加担するのはむしろ高学歴が多い、
と言う調査結果と関係あるのでは?と邪推もするが、
今回の本題からは外れるのでまた次の機会に。

ドレスコード

- パーティと言うもの自体、昔からドレスコードはあった。つまり、結婚式にカジュアルウェアでの参加はご遠慮ください、と言うのと同じ。
- ディスコ時代にもGパンサンダルはダメとか、一定のドレスコードはあったし、クラブカルチャー時代でもパーティによって「赤い衣装が望ましい」などのドレスコードが敷かれることは珍しくない。
- しかしフェティッシュパーティでのドレスコードはそれらに比べ遥かに厳格である。ドアマンがパーティにふさわしいコスチュームかどうかを吟味し、雰囲気にあわない人は容赦なくお引き取り願う(私自身、当時5万くらいかけてコーディネートしたサイバーファッションをキメて向かって、ドアマンに断られた時は泣きました:-))。それは、パーティが出演者で作られるものではなく、観客が参加して初めて成り立つ空間だということ。そこには「お客様vsサービス提供者」のような今日の経済至上主義へのアンチテーゼにもつながる。

フェテイツシュの種類

ボンテージファッション

- 「衣服の素材への偏愛」。現在はSM現場などで身につけられるパーティコスチュームらしいオシャレな衣服が主流だが、本来は皮膚感覚を楽しむものである。
- メジャーなものではラバーフェティッシュ、エナメルフェティッシュがあり、ラバースーツ、エナメルスーツは大人のおもちゃ系の通販などで購入可能。手軽なところでは全身ガーゼ包帯などからチャレンジしてみると良い。

ボンテージファッション 凡例

ラバースーツ



女性モノはより身体の線を強調するものが多く、キャットスーツと呼ばれる。

エナメルスーツ



ラバーに比べ安価で光沢もあり、よりファッション性が重視されている。

サイバーファッション

自分のパーティウェアはこの系統だが、なにげに説明は難しい。宇宙人ファッション、なんて言い方もあるが、少なくとも私は宇宙人コスプレをしている意識はない。サイケデリックとも似ているが、サイケの特徴である極彩色は必須ではない。

サイバーファッション凡例



女性の場合、アニメの女性戦士の格好に近いものがあり、近未来性、極彩色などに特徴がある。

。



男性の場合は必ずしも極彩色は必須ではないが、若干戦闘服をイメージしている。

ユニセックス

LGBT的なgender twistをコスチュームやアクセサリーで表現したファッション
(男子がスカートをはいたり、V系のように男子が化粧したりなど)。

SM

- 性愛としてのSMは風俗雑誌にもよく取り上げられるし、今日の日常会話にもよく現れる。
- むしろフェティッシュカルチャーでのSMは性的刺激もさることながら、階級転倒class twist的な意味合いが強い。
- 女王様プレイはよくあるが、フェティッシュパーティーでは奴隷のレベルではなく家畜のレベルまで自分を貶めるファッションをコーディネートする。ほぼ全裸の女子を犬のコスプレをした男子が首輪を付けて散歩する光景等。

女王様



サンプル画像では持っていないが、もちろん鞭が必需品。

奴隷



緊縛については別途紹介。

ゴシック

- ゴシックもまたサイバー同様、ファッションとして進化してきたジャンル。
- 日本ではV系ロックアーティストが好んで取り入れるので、ユニセックスと混同されることもあるが、ユニセックスがgender twistの表現であるのに対し、ゴシックはキリスト教の宗教的な表現である。
- つまり、天使と悪魔=善と悪の対立、が重要なモチーフである。また、中世的なイメージもゴシックを特徴づける。

ゴシック



日本ではよりかわいらしさを強調したゴスロリファッションが広く浸透しているが、本来はこうした悪魔性の強いルックスのファッションである。

人体改造(Body Modification, BM)

- タトゥーやピアッシングは、日本では不良文化、ヤンキー文化の一部と考えられているが、海外では宗教タトゥーもあるので一筋縄では語れない。
- また、人体改造には他にサイボーグ整形(豊胸手術で行われているようなシリコン注入を、腕や頭部などの他の身体部位にも入れて改造してしまう、あるいは、耳や舌以外の様々な身体部位にピアッシングを施すなど)もあり、ユニセックスよりさらにシリアスな表現とも言える。

人体改造の凡例

スプリットタング



吉高由里子主演映画「蛇にピアス」
でも話題になった。

ヘッドシリコン



過激度合いの高いタトゥーやピアスでも同様
だが、ファッションを超えて自分の人体を
再設計し、別の生き物に生まれ変わろう
とする意志が見て取れる。

緊縛

- 日本人には説明不要であろう。縄で身体を縛り付ける行為だが、西洋にもコルセットで激しく身体を締め付ける文化があるため、ヨーロッパのフェティッシュパーティーにも古くから登場している。
- コルセットはある意味、女性のやせ信仰が生み出した究極の形とも読めるが、フランス革命以前から存在するファッション文化である以上、首長族のように民族文化と見なすべきであろう。

緊縛の凡例

亀甲縛り



全身をくまなく縛り、六角形を作って
亀の甲羅模様にするしばり方。

逆海老縛り



全身を縛ったうえに、更に吊り下げる
プレイ。そのため海老反り状態に
なることからこの名前が付いた。

人形愛

- これもオタク文化と親和性が高い分野だろう。もちろん性的欲求解消のためのラブドールは昔からあるが、フェティッシュではむしろフィギュアコレクションの延長としてのドールと考えた方が良い。ある意味、最もフェティッシュ(物神崇拜)の元義に近いとも言える。
- ラブドールに関しては、以前ちきりんさんのビジネスブログからも引用した通り、日本は非常に技術が発達しており、見映え、肌の質感ともにリアルな人間の女の子と大差なくなりつつあり、今や人形っぽい違和感がほとんど薄らいでいる。

人形愛(続き)

- さらに3Dプリンターのような技術が進めば、素人が簡単に人気アイドルそっくりのラブドールを作れる時代もそう遠くはなく、未来の婚姻率にも大きく影響する可能性がある(現在でも既に高齢者が配偶者を亡くした後の喪失感を埋めるためのパートナーとしても注目されている)。
- さらに言えば、コスプレ的感覚として「自分が人形に成りきる」と言うアプローチも存在する。これは人体改造同様の「自分以外の誰かに成りきる」コンセプトである。

人形愛(凡例)

ラブドール



現在では外に連れ出しても遜色ない完成度に達している。当然、これにセーラー服を着せたりセクシー水着を着せたり等、様々な楽しみ方が可能。

被り物コスプレ

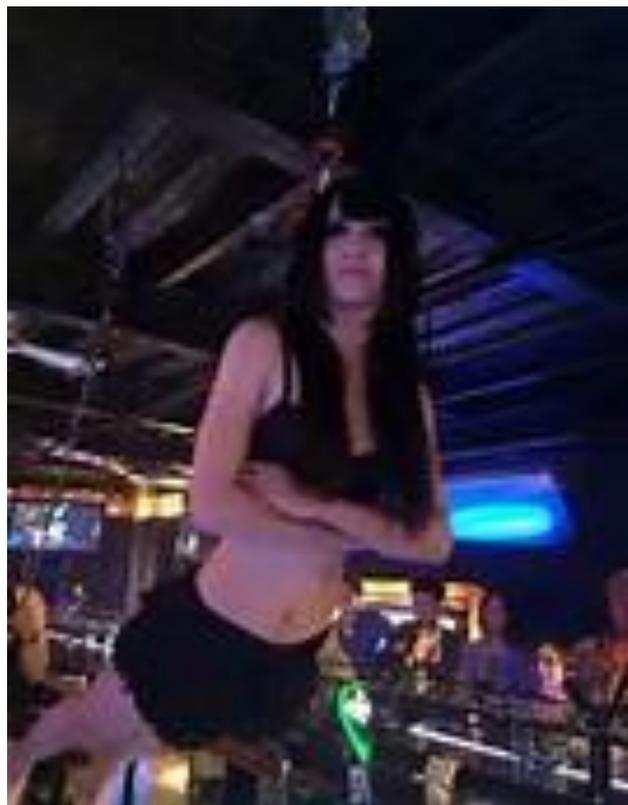


良い写真が見つからなかったが、コアなドールコスプレはハロウインのような見せて楽しむコスプレではなく、密やかな楽しみとして行うコスプレである。

ボディサスペンション

視覚的に、フェティッシュパーティーでも最も刺激的なパフォーマンス。背中や肩などの身体部位に直接フックを刺し、宙吊り状態で行われるパフォーマンス(他のもそうだが、本当に"良い子はマネしちゃダメ"の世界である。パフォーマーも医師と相談の上、OKをもらえる体調下でしか行わない)。究極の"見る痛み"が強烈。

ボディサスペンション



フェティッシュパーティーの楽しみ方

No Spectators

- ドレスコードの章でも述べたが、フェティッシュパーティーでは"参加者全員がパフォーマー"であることを求められる。
- 階級社会が地位の違いを否定し、偽りのない自分を解放することが本意だが、いずれにせよ、「選りすぐりの変態ども」が集う場に、気安くノーマル人が立ち入ってはならない。そこは神聖にして神秘の間なのである。

大人のファンタジー

- どんな人にも、天国に行きたい願望はある。俗っぽく言えば、南の島のバカンスだったり。高望みしない人には家族の団らんが最も大事。
- それらに当てはまらない、ねじれた時空間に生きる人々への、第三の天国。そこにはアリスが住むワンダーランドが待っている。テレビでもインターネットでもなく、現実に存在する究極の非日常。

グッズ

視覚的インパクトよりも、肌に触れ、五感で感じる事が重要なグッズばかりである。

SM道具

- 鞭
- 手錠、首輪
- アイマスク
- マウスピース
- その他、大人のおもちゃ

手作り

- 当然のことだが、フェティッシュなグッズ、アクセサリー、道具などは一般的な需要が少ないため、ごく特定されたショップでしか売られていない。ネット通販以前にも電話通販が当たり前であったし、オリジナルの手作りも盛んである。

世界のフェティッシュパーティー

Torture Garden

フェティッシュパーティーの本場イギリスの中でも更にその最高峰。最強のドレスコードが敷かれる一方、世界最高峰のフェティッシュパフォーマーが登場する。

日本での公演、Torture Garden Japanは2001年に始まり、これまで10回ほど行われている(筆者はそのうち4回参加)。

URL: <http://torturegarden.tokyo/>



THE WORLD'S LEADING FETISH CLUB
TORTURE GARDEN
JAPAN
2017 SUMMER BALL

2017.6.10
SATURDAY OPEN 22:00
ENTRANCE:6000YEN/1D
@XEX NIIHONBASHI

Photo: Ayumu Masuda / Lingo, Toru Gotoh / Lingo / Photo: Shunpei Hongo / Model: Rina Endo

Torture Garden Japanの フライヤー

Department-H

日本最大の定期開催(2018年現在では毎月第1土曜に鶯谷・東京キネマ倶楽部で開催されている)のフェティッシュパーティー。変態への間口の広さでは世界一と言えるかもしれない。西洋的な変態と日本的な変態が入り交じるカオス状態を楽しむべし。

URL: <https://ameblo.jp/department-h/>



Department-Hのフライヤー

THE GATE / Tokyo Fetish Ball

日本最高のフェティッシュイベントクルー、
Tokyo Kink Societyが主催する不定期開催のパーティ。
国内でフェティッシュパーティを楽しむならここ
(筆者は参加経験なし)。

URL: <http://www.tksociety.com/j/index.html>

Japan's Sexiest Party!

July 22, 2017 Sat - open 23:45!

The Gate

Enter into Fantasy

SHOWS!

Bizarre by GAULLING UNIT!
Kinbaku! by NUIT DE TOKYO!
Wicked! by TESSIN! and LEIGH!
Exotic! by GILBERT DE MOCCOS!
Sexy! by TKS POLE-DANCE GIRLS!

SPACES!

DJ Space!
Main Stage Area!
Dungeon Space!

DJs:

KHIMAIRA! SATSUKI! SOTA! ZIL!

TKS
Tokyo Kink Society

TKS Fashion Model - KIRI

STRICT DRESSCODE ONLY!

Fantasy, PVC, Leather, Cosplay, Girth, SM, Fetish, etc.

ICON LOUNGE

NO STREETWEAR!

Shibuya (Shibuya Stn)

THE GATEのフライヤー

その他の海外のフェティッシュパーティー

- German Fetish Ball

<http://www.german-fetish-ball.com/>

ベルリンで行われるフェティッシュピープルの祭典。ヨーロッパ、と言うか世界最大のフェティッシュパーティー。

- Wasteland

<https://www.wasteland.nl/>

オランダのアムステルダムもまた、ヨーロッパのサブカルチャーの中心地のひとつ。

- Prague Fetish Weekend

<http://fetishweekend.cz/>

東欧もまたフェティッシュパーティーが盛んな地域。その中でもチェコのプラハが中心的存在。

フェティッシュパーティーを紹介する メディア

フェティッシュパーティーを紹介するメディア (現状)

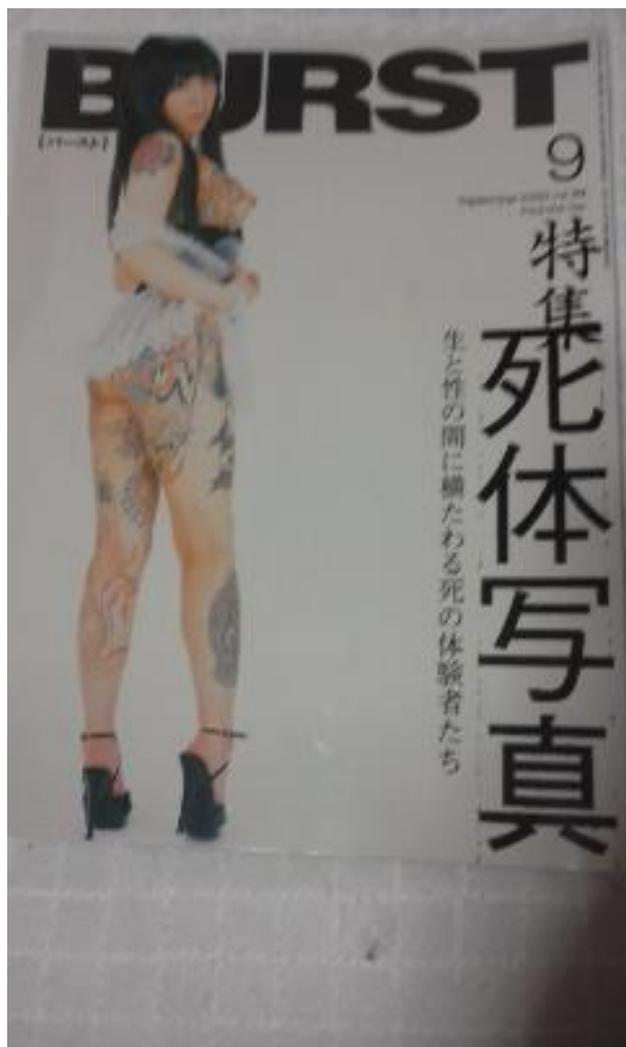
- 基本的に、フェティッシュパーティーを紹介するメディアはない。もちろん、Torture Garden JapanやTokyo Kink Society等、個別のパーティークルーのサイトは存在するが、基本的にフェティッシュパーティーはプライベートパーティーが多く、オープンで総括的な紹介サイトはほぼない。

「BURST」、その他のメディア

- かつては「BURST」と言う、暴走族、非合法薬物(合法国家での状況レポート)などの記事を扱う極めつけのサブカル雑誌(紙媒体、かつ一般書店で購入できた)が存在し、筆者もその影響を受けた(Torture Gardenのようなパーティもこれで知った)。
- そこで日本に身体改造カルチャーを紹介していたケロッピー前田氏のブログが存在し、現在でもフェティッシュな海外事情を紹介したりしているが、BURSTほどの影響力はない。

現場での体現の重要性

- しかし、メジャーなメディアがないのは、サブカルチャー全体に共通する話であって、特に皮膚感覚が重要なフェティッシュパーティーについては、断片的な情報からでも良いから、先ずは現場に参加して、五感で感じる事が重要である。
- 消費するだけで終わるマスメディアカルチャーとは一線を画す濃いカルチャーを体験してほしい。



BURST表紙

結論：あらためて「変態」の定義

人類の中での「生物多様性」である

- 性愛の多様性と言うのは、まだ歴史が浅い。セックスがリクリエーションになったのは19世紀に入ってからである。
- いまだにフェティッシュが好奇の目で見られるのは、やはり歴史の浅さに負うところが大きい。
- 逆に言えば、フェティッシュカルチャーの歴史は始まったばかりであり、今後何世紀もかけて進化する文化になると考える。すなわち、人類の中での"生物多様性"こそがフェティッシュ、変態である。

サブカルチャーはどこへ行くのか

- 階級闘争の中でサブカルチャーが生まれ、その下位カテゴリーの1つのクラブカルチャーと変態文化が出会ってフェティッシュカルチャーが誕生した。
- 階級社会から格差社会に変わった現在、新たな文化闘争の現場にフェティッシュカルチャーは中心的ポジションを獲得していけよう。
(例：LGBTファッション、BL小説の普及など)

END